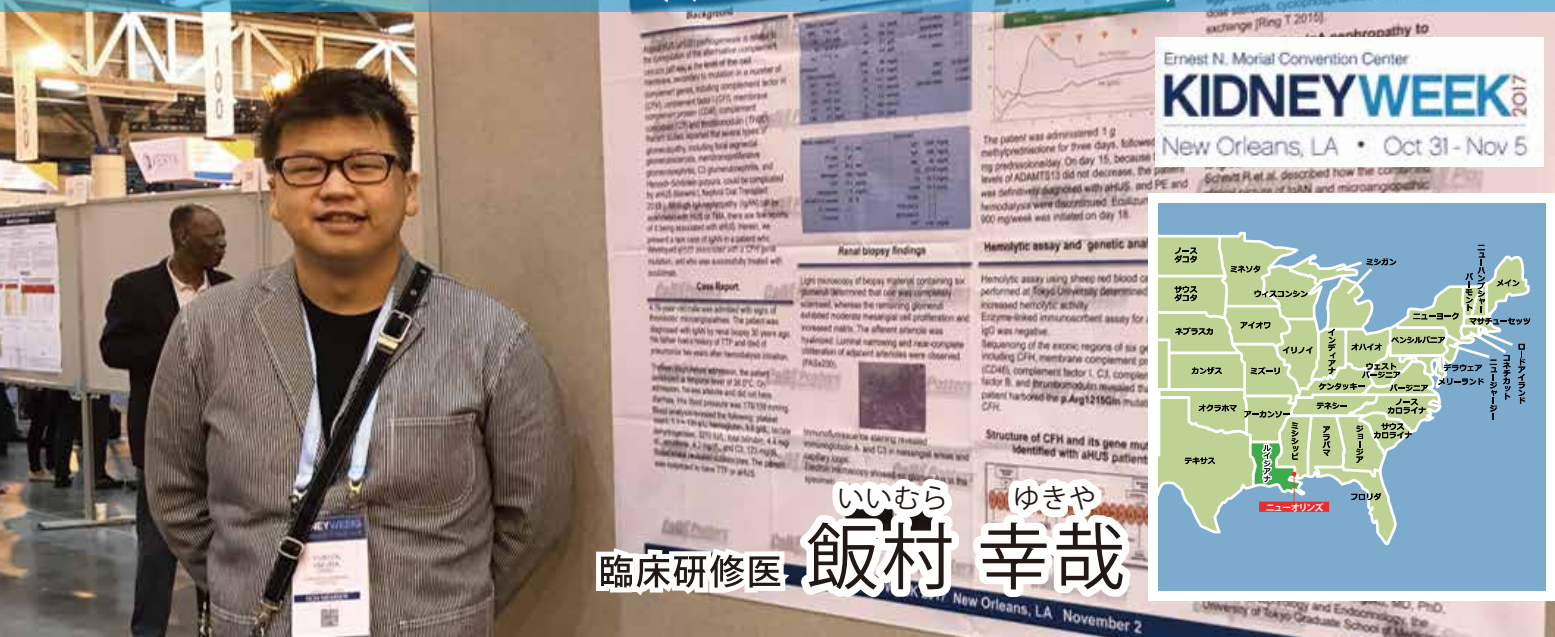


アメリカ腎臓学会に参加して



いいむら ゆきや
臨床研修医 飯村 幸哉

この度、私はアメリカ腎臓学会の Kidney Week 2017 という年に一度のとても大きな学会に腎臓内科の中村先生と参加させていただくことができました。今まで篠ノ井総合病院では研修医が海外の学会で発表する前例はなく、篠ノ井総合病院という病院は研修医のやる気があれば積極的に背中を押してくれる病院だと改めて感じました。後進にも国際学会への道が拓けたと思っております。

今年度の Kidney Week はニューオーリンズというアメリカ中部の街で行われました。ジャズの発祥で有名な街です。会場についてただただその規模の大きささと人の多さに驚きました。伝わるかわからないですが、イメージとしては幕張メッセとその横のニューオータニが学会会場で、気がつくと1日で20,000歩くらい歩いていました。

私の発表は IgA 腎症を基礎疾患に持つ患者さんが aHUS という病気を発症した症例になります。HUS とは溶血性尿毒症症候群という病気の略で、急性腎障害、溶血性貧血、血小板減少を3徴としています。HUS には O-157 を原因とするものや血小板減少性紫斑病や SLE、妊娠、薬剤性など様々な原因が挙げられます。その中で私がポスター発表した aHUS というものは主に遺伝的要因で発症し、その遺伝子が IgA 腎症にも関与している可能性があるというもので、かなり稀な症例でした。今回は先端医療を理解し、病歴や家族歴などから遺伝的素因を考慮して、迅速に専門機関に遺伝子診断を依頼することができ、適切な診断と治療ができた症例になります。拙いながらも英語で説明や討論し、無事に終わることができました。発表されている内容も自分にはレベルが高くかなり難しい内容でしたが、とてもいい勉強になりましたし、何よりかなり刺激を受けました。医師として働く以上は学問への貢献も必要なことだと考えておりますし、何より今回の症例を通じて自分自身の勉強にもなりました。

最後になりますが、病院の方で特別ご配慮いただき心から感謝申し上げます。また腎臓内科及び救急科の諸先生方にもこの場をお借りして御礼申し上げます。特に腎臓内科中村先生には何から何までお世話になり、感謝の言葉しかありません。

